

先日、講演会である方に尋ねられました。「わが子を、悪の道に進めないためのポイントを教えてください」と。みなさんが、こんなワクワクする問いを受けたらどうお答えになりますか？きっと、答えはたくさんあると思います。

ちなみにわたしは、「悪の道に進めない・・・でなく、善の（もしくはその子らしい）道に進めるには・・・と考えたらどうでしょう？」と応じました。教育や子育ての発想には、①子どもの「悪」を抑制し、矯正・指導しようとする考え方 ②子どもの「善」を育成し、覚醒させようとする考え方 の二つがあります。①は、どこかで相手への不信や疑惑を前提にしています。放っておくとダメになるのではないかと・・・と。他方②は、あくまで相手への信頼や期待を前提にしています。きっとやってくれるはず・・・と。

たとえばある試みで、幼稚園児たちを2グループに分け、一方に「これを割っちゃダメよ」と、他方に「これを大事に持っていてね」と声をかけてお皿を渡しました。すると、「割っちゃダメ」グループほど見事によく割る、という結果が出たのです（笑）。悪を抑制しようと、悪に声をかけるほど、不思議と悪が刺激され活性化してしまう。他方、善にむかって声をかけるほど、ねむっていた底力を湧きあがらせる。遅刻するなど伝えるよりも、時間を守ろうと伝える方が、言われる側も言う側も心地よいものではないでしょうか。

ただしこれは、単にすべてを子どもたちに任せるという、教育の放棄を意味するわけではありません。この点については、次回、詳しくお話ししましょう。

いずれにしても、子どもたちは驚くほど敏感です。自分が「不安や心配の種」と思われているのか、それとも「希望の種」と思われているのかを。それによって自己肯定感や自信も大きく変わってきます。たしかにいろんなことをしでかすのが子どもたちです。しかしそこに希望を見出し、そんな日常を味わい深く楽しめたらと思います。